

科学的助言等対応委員会

(第26期・第1回)

議事要旨

1. 日 時 令和6年1月31日(水) 15:00~17:00
2. 場 所 オンライン開催
3. 出席者 磯委員、大久保委員、奥野委員、尾崎委員、小田中委員、北川委員、小林委員、関谷委員、森委員、山田委員
4. 配布資料
 - 資料1 科学的助言等対応委員会委員名簿
 - 資料2 科学的助言等対応委員会運営要綱(令和5年10月27日日本学術会議第357回幹事会決定)
 - 資料3 科学的助言等対応委員会の公開等について(案)
 - 資料4 日本学術会議の運営に関する内規(平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定)
 - 資料5 意思の表出等の作成手続について(令和3年12月24日日本学術会議第320回幹事会決定)
 - 資料6 意思の表出に係る外部機関等との意見交換に関するガイドライン(令和4年1月27日日本学術会議第321回幹事会決定)
 - 資料7 前期(25期)に科学的助言等対応委員会で処理を行った意思の表出一覧
5. 議 事
 - (1) 役員を選出について
 - ・委員長の互選を行い、磯委員を選出した。
 - ・磯委員長が、副委員長として山田委員、幹事として小林委員、森委員を指名し承認された。
 - (2) 審議の進め方等について
 - ① 委員会の公開等について
 - ・委員会の公開等について、「資料3」案のとおり了承された。
 - ② 委員会の開催方法等について
 - ・今期の委員会の開催方法や開催頻度については、執行予算も考慮し、委員会は各年度内に定期的に2回、臨時に1回を目途に開催することとした。このほか、委員会運営等を補完するため、全委員で構成するミーティングの場(委員会懇談会)を設け、概ね月1回開催することとした。個別の意思の表出案に係る提案、査読及び承認に関する審議等については、必要の都度メール等で行うこととした。

③ 委員会における手続きの概要

- ・事務局より、意思の表出の作成手続き等の概要、本委員会における審議の手順、前期に本委員会が行った業務実績、意思の表出案の作成に当たっての課題、会議等におけるBOX（クラウドストレージサービス）の活用等について説明を行った。
- ・委員長より、意思の表出の作成に当たっては、検討課題の設定、意思の表出の構成、質の確保といったことが大事で、特に、検討課題時の助言といったスクリーニングは重要であり、他方、委員会・分科会等における検討枠組みの明確化に関しては、別途、学術会議内のワーキングで検討されているため、ある程度整理できている、との発言があった。また、意思の表出の作成から公表までのプロセスと所要時間に対する理解や、進捗状況の把握が重要であるため、論文査読システムをカスタマイズして査読システムを作ることと考えており、それまでの間はBOXで対応していきたいと発言があった。
- ・委員より、個別の意思の表出案件に係る取りまとめ委員は、どこでどのように決めるのかという質問があり、事務局より、前期では、取りまとめ委員は本委員会の役員が指名していたが、今期は審議の手順を見直し、委員全体で決めることを想定している旨の回答を行った。
- ・委員長より、本委員会における審議の手順については、本日決めた方針に基づき、必要に応じ見直す必要があると発言があり、事務局で精査した上で、適宜見直すことになった。

(3) その他

- ・事務局より、個別の意思の表出案件（1件）について、現時点における今後のスケジュールの見通しに関し、説明を行った。
- ・今後の開催日程は、後日事務局を介して調整することになった。

以上